

山桜會報

YAMAZAKURA-KAI

90th
Anniversary

90周年記念号

第 78 号

2006年12月

発行者
追手門学院校友会山桜会
会長 川原 俊明
〒540-0008 大阪市中央区大手前 1-3-20
追手門学院小学校内
TEL 06-6940-3481・FAX 06-6940-3482
<http://www.yamazakurakai.com/>
e-mail office@yamazakurakai.com
© 2006 編集責任 松本 暁子



平成19年度新年会

平成19年1月27(土)午後6時開宴
会場:リーガロイヤルホテル 2F 山楽の間

CONTENTS

表紙(90周年総会 大阪天満宮での祈祷)	1
総括山桜会創立90周年記念事業(川原俊明会長)	2
評議員増員について・新評議員・山桜会組織図	
学院創立120周年記念事業「総合募金」のお願い	3
平成17年度 収支計算書・平成18年度 予算案	4
財産目録・山桜会基金現在高・積立金現在高／ 伝統の継承[体育大会](津田克彦小学校校長)	5
あなたを伸ばします(南 登章生大手前中高等学校教頭)	6
入試広報便り(木内淳詞中高等学校教諭)	7
ブルガリの軌跡と奇跡(小61期 深江 賢さん)／天神祭 第3回学院奉拝船	8
花影アリスさんを応援する会(小80大中23茨高23期 松本 暁子)／ のじぎく兵庫国体に母校在校生が2名出場	9

山桜会90周年記念 太平洋戦争中及び戦後の偕行社付属小学校と追手門学院 (秋山陽彦副会長)	10・11・12・13
小58期い組同窓会／旧大阪偕行社小学校第49期ろ組クラス会／ 山桜会90周年記念チャリティゴルフコンペ開催について／女性部会の催し	14
東京山桜会 第49回総会(大中高19期 佐伯文子さん)／ 平成18年度山桜会総会 90周年総会・懇親会「新会員をご招待!」／ 垂水公正さん「瑞宝中綬章」を受章／ 米寿を迎えて山桜会を想う(元 学院理事・山桜会副会長 赤松照夫さん)	15
平成19年山桜会新年会～120周年への飛翔・厳かなる新年の集い～ 東京山桜会50周年記念総会のご案内／学院120周年記念事業総合募金 のお願い(川原俊明会長)	16



総括 山桜会創立90周年記念事業

校友会 山桜会 会長 川原 俊明

はじめに

会員みなさま、今年は大変お世話になりました。

山桜会の多彩な創立90周年記念事業の展開で、山桜会史上、始めて以来の超多忙な年となりました。

この1年を振り返ってみると、記念新年会[1月28日(土)]から始まり、福井日銀総裁記念講演会[3月18日(土)]、記念総会・懇親会[6月25日(日)]、記念チャリティゴルフコンペ[9月17日(日)]、記念パーティ[10月29日(日)]、さらには記念コンサート[11月8日(水)]に至るまで、例年の山桜会行事の2・3倍もの事業を敢行したことになります。

記念パーティの第一部を飾るシンポジウム「オール追手門に向けて」。

少子化現象の中で始まる私学のサバイバルゲームに追手門学院が勝ち抜くためにはどうすればいいのか。卒業生としてなし得ることは何か。「オール追手門」が改革のキーワードになりうるか。理事長をはじめ学院の各代表が一堂に会する学院始まって以来のシンポジウムでした。

第2部も、90周年を祝うにふさわしい三番叟。歌で綴る山桜会。300人をを超える参加者の思い出に残るすばらしいパーティとなりました。

湯浅卓雄氏の記念コンサートに至っては、実に1500名を超える聴衆がシンフォニーホールを埋め尽くしました。ご来賓、学生生徒、保護者、学院関係団体、大学校友会、山桜会会員、ご家族など、全学からの結集でした。

パイプオルガンが奏でる追手門学院校歌。湯浅卓雄氏の全身からわき出る力のこもった指揮ぶりに感動の渦。まさにオール追手門の象徴的事業となりました。学院としても、2008年に向けて、今年は、創立120周年記念事業が多々行われました。しかし、数多い学院記念事業の中でも、際だって山桜会色の強かった年でした。

この成功は、山桜会の理事・評議員のみなさんのご尽力のたまものです。

そして、多くの会員みなさまのご支援とご協力のおかげです。度重なる参加要請に、みなさまには大変ご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。

それだけではありません。山桜会記念事業の多くが、学院創立120周年記念事業としての位置づけを得ていることから、多くの学院関係者、各校PTA、教育後援会をはじめとする各団体の絶大なご協力をいただきました。紙面をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。

山桜会が得たものは

創立90周年記念事業で山桜会が得たものは何か。

山桜会は、同窓会組織として、卒業生相互の親睦団体にとどまらず、活動目標に掲げる「母校に対する教育改革支援」を実践できたことでしょう。

山桜会は、「オール追手門の中核組織」でありたい。

記念シンポジウムでも、かねてから私達が主張していた山桜会の存在意義を十分に主張させていただきました。

おかげで、山桜会活動に対するプラス評価もいただき、将来の活動に対する期待も抱いていただけるようになりました。

私達は、追手門学院の卒業生として、母校に対する貢献をさらに高め、学院の発展に全力を傾注したいと思います。

山桜会が進むべき道は

数多くの記念事業を推進したことに伴って、私達が反省すべき点の一つは、山桜会実行部隊に疲労感が蓄積していることでした。

1年間で実行する企画として、「やり過ぎだ」との声を乗り越えて、すべてやり遂げてしまった達成感がある反面、山桜会を支えてきた各事業の実行委員会のみなさんの「金属疲労」が心配です。

山桜会活動は、すべてがボランティアです。参加していただく会員のみなさんすべてに、「時間」と「労力」と「手弁当」を惜しげもなく提供していただいています。それだけに、活動の核となる実行部隊のメンバーがどうしても固定化する傾向にあります。事業の企画段階から、もっと多くの一般会員が気楽に参加できる体制を整え、それを前提とした山桜会活動に裾野を広げる必要性和感じています。

山桜会は、すべての卒業生のためにあります。

山桜会の事業は、すべて、会員参加によって成り立っています。

より多くの会員の皆様のご理解とご参加を得て、より大きな、そして社会的に有意義な事業を推進したいと考えています。

山桜会執行部ならびに各委員会は、90周年記念事業の推進を通じ、より強力な結束を得ることができました。

しかし、山桜会が、今後も、より大きな展開をするためには、多くの若い後輩達の力を結集するとともに、もっと気軽に、もっと楽しく、もっと社会的意義のある充実した活動内容することによって、幅広い「裾野の拡大」を目指す必要があります。

山桜会は、卒業年度を問わず、ひたすら愛校心旺盛な会員のみなさまに対し、母校改革支援活動への積極参加を呼びかけます。

山桜会活動を通じて、私達が得る最大のものは、90年の歴史に裏付けられた人材の宝庫との出会いがあります。

次の100周年に向けて

私達は、この一年に展開した山桜会創立90周年記念事業は、あくまで山桜会ならびに母校の発展、という大きな目標に向かっての一里塚にすぎない、という認識をしています。

記念事業を通じ、私達は、多くの収穫を得ました。

組織として、評議員に対する学年代表意識の高揚の必要性、一般会員に活動の輪を広げる方策の検討、組織として横断的機能的活動への強化策などが課題として顕在化してきました。

山桜会創立90周年記念事業をこれだけ華やかに実施できたのは、なによりも学院との連携、学院からのバックアップがあったからこそです。

私達は、さらに学院との連携を深め、母校に対する強力な支援団体であらうと思います。

評議員増員について

山桜会では、今年が創立90周年という大きな節目を迎え、活発な記念行事が順次開催されています。

私達は、追手門学院が2008年に創立120周年を迎える過程において、山桜会が学院の中で大きな位置を占めるよう努力を重ねてまいりました。

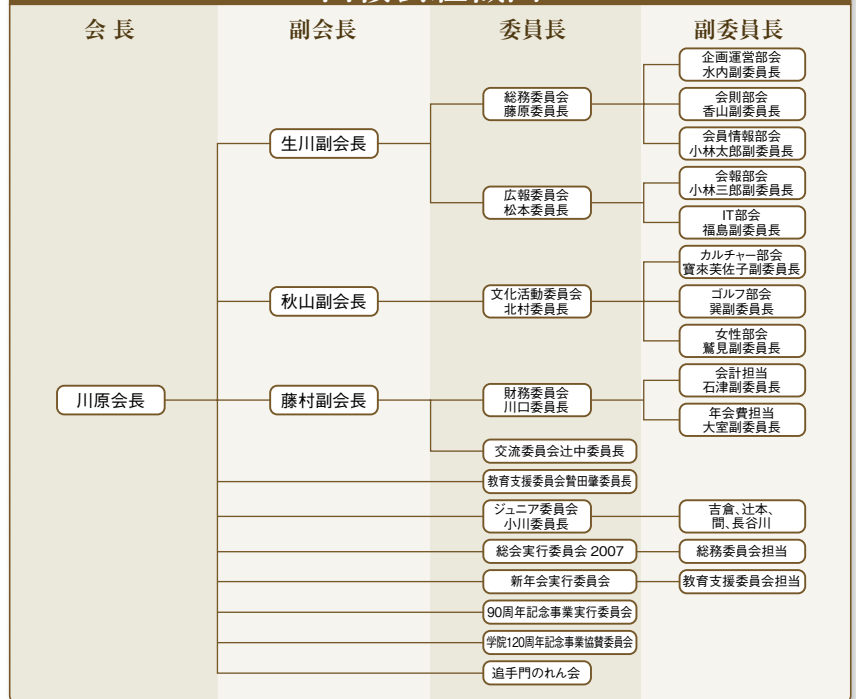
そのような中で、先輩達が築き上げてこられた山桜会の基盤をさらに強固にするためには、創立90周年にふさわしく、その第一歩として、学年代表である評議員の皆様方の活発なご意見をより多く評議員会に反映させ山桜会の内部体制を強化する必要から、今回33名の新評議員を増員いたしました。これにより、山桜会全体がより活性化するものと考えています。

平成 18 年 8 月 1 日付 新評議員

- | | |
|---------------|--------------------|
| ■ 泉谷 徹 大高 24 | ■ 辻田 悦三 小 59 |
| ■ 今中 真加 小 91 | ■ 津田 敬太郎 大中高 36 |
| ■ 今西 良介 小 103 | ■ 土畑 純子 高 25 |
| ■ 岩崎 洋子 小 75 | ■ 中川 厚子 中高 24 |
| ■ 大賀 伸一郎 大 54 | ■ 長岡 英人 小 59 大中高 2 |
| ■ 大西 香織 大高 53 | ■ 橋本 智恵 大高 53 |
| ■ 尾田 薫 高 34 | ■ 花岡 恵子 大高 50 |
| ■ 尾上 依子 小 79 | ■ 林田 隆行 小 72 |
| ■ 北川 大徳 大高 51 | ■ 平泉 健一 小 79 |
| ■ 小角 由里子 大 35 | ■ 福本 恭子 小 79 |
| ■ 小林 二郎 小 79 | ■ 森 加奈恵 大 48 |
| ■ 小林 武則 大高 24 | ■ 森村 科子 小 85 |
| ■ 阪本 晴代 小 78 | ■ 山崎 久美子 大高 29 |
| ■ 塩見 啓二 小 85 | ■ 山村 俊輔 中 31 |
| ■ 塩見 元司 大 25 | ■ 横川 かなみ 大高 52 |
| ■ 重里 康太 大高 54 | ■ 吉村 侑子 大高 19 |
| ■ 田頭 泰 小 85 | |

アイウエオ順（敬称略）

山桜会組織図



◆ 学院創立120周年記念事業「総合募金」のお願い ◆

追手門学院常務理事 山中 雅夫

謹啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は学院の教育事業発展のためにご協力ご支援を賜り、まことに有難うございます。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

貴会にあっては今年創立90周年の記念すべき年を迎えられましたこと、慶賀の上なきことと存じます。学院は2年後に創立120周年を迎えるわけですが、貴会では山桜会90周年を学院120周年の一環として位置づけて頂き、学院の将来発展を志向したさまざまな事業を企画・実施され、母校への支援意識を高められていますこと、学院としてまことに有難う感謝に耐えません。衷心よりお礼申し上げます。

学院では、この120周年という大きな節目を最大限に生かすべく、大手前（小学校、大手前中・高）、茨木（中・高、大学）、豊中（幼稚園）の全キャンパスでオール追手門をあげての記念事業を進行させております。詳細については総合募金趣意書資料をご覧くださいと思いますが、「優れた教育に美しいキャンパス」の整備を進め、

ゆるぎない追手門教育のさらなる発展に取り組んでおります。

ところで、学院では昨年10月に創立120周年記念事業総合募金をスタートさせました。

すでに関係各位から貴重なご芳志を頂戴いたしておりますこと、心よりお礼申し上げます。学院では募集力向上、経費節減、原資拡大、各種補助金獲得など総力を挙げて自助努力を続けていますが、これらの記念事業を達成するためにはなお多額の資金を必要としています。ここに校友会山桜会会員各位の、募金活動に対する一層のご理解ご協力を重ねてお願いを申し上げる次第であります。ご高配の程よろしくお願い申し上げます。

末尾ながら会員各位の一層のご活躍を祈念してご挨拶とさせていただきます。なお、入れ違いにすでにご寄付を頂戴いたしております場合には、失礼の段ご容赦賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

謹白

平成17年度 山桜会収支計算書

(平成17年4月1日より平成18年3月31日)

(単位:円)

〈収入〉	予算額	決算額	差異	備考
前期繰越金	29,746,097	29,746,097	0	
入会金	15,000,000	17,220,000	△2,220,000	平成17年3月卒業生分 3万×574名
年会費	6,429,000	12,423,000	△5,994,000	平成16年度、17年度分年会費
賛助金・寄付金	200,000	110,510	89,490	寄付金 2名
会報広告料収入	300,000	360,000	△60,000	
名簿販売料収入		10,000	△10,000	@ 5,000×2冊
総会費収入		466,000	△466,000	
新年会費収入		2,746,000	△2,746,000	
利息収入	1,000	2,370	△1,370	
雑収入		117,992	△117,992	小学校文化祭菓子販売代金他
合計	51,676,097	63,201,969	△11,525,872	
〈支出〉				
事務費	2,000,000	868,706	1,131,294	学校事務費 他
交通出張費	30,000	0	30,000	
支部助成費	350,000	350,000	0	東京山桜会35万円
総会費	250,000	633,732	△383,732	
会議費	200,000	200,000	0	理事会、評議員会、各種委員会
IT部会費	400,000	302,970	97,030	
会員情報部会費	250,000	416,640	△166,640	
会報部会費	6,500,000	6,874,847	△374,847	会報75号、76号郵送料(未払い)含む
文化活動委員会費	100,000	100,204	△204	
教育支援委員会費	1,320,000	1,020,468	299,532	学校祭、体育大会教職員への記念品
ジュニア委員会費	50,000	1,260	48,740	
女性部会費	50,000	20,000	30,000	
天神祭協賛金	200,000	200,000	0	
雑費	500,000	512,119	△12,119	機料、弔電 他
新年会費	500,000	3,216,252	△2,716,252	
予備費	500,000	0	500,000	
幼稚園へ寄付金		300,000	△300,000	
年会費関連費用	1,000,000	1,330,290	△330,290	
年会費入金手数料等	339,899	339,899	0	
学院120周年積立基金	3,000,000	3,000,000	0	
山桜会90周年式典積立	1,000,000	1,000,000	0	
山桜会基金		10,000,000	△10,000,000	
小計	18,539,899	30,687,387	△12,147,488	
次期繰越金	33,136,198	32,514,582	621,616	平成18年3月卒業生分を含む
合計	51,676,097	63,201,969	△11,525,872	

平成18年度 山桜会予算案

(平成18年4月1日より平成19年3月31日)

(単位:円)

〈収入〉	本年度予算	前年度予算	増減
前期繰越金	32,514,582	29,746,097	2,768,485
入会金	15,000,000	15,000,000	—
年会費	5,700,000	6,429,000	△729,000
賛助金・寄付金	200,000	200,000	0
会報広告料収入	1,020,000	300,000	720,000
利息	5,000	1,000	4,000
山桜会90周年積立金より組み入れ	2,000,000		
合計	56,439,582	51,676,097	2,763,485
〈支出〉			
事務費	1,500,000	2,000,000	△500,000
交通出張費	30,000	30,000	—
支部助成費	300,000	350,000	△50,000
総会費	250,000	250,000	0
会議費	200,000	200,000	0
IT部会費	950,000	400,000	550,000
会員情報部会費	450,000	250,000	200,000
会報部会費	7,400,000	6,500,000	900,000
教育支援委員会費	1,350,000	1,320,000	30,000
ジュニア委員会費	100,000	50,000	50,000
女性部会費	25,000	50,000	△25,000
文化活動委員会費	0	100,000	△100,000
天神祭協賛金	200,000	200,000	0
雑費	500,000	500,000	0
予備費	500,000	500,000	—
新年会費	500,000	500,000	0
山桜会90周年関連事業	3,000,000		
年会費関連費用	1,000,000	1,000,000	0
年会費入金手数料等	350,000	339,899	10,101
学院120周年積立基金	3,000,000	3,000,000	—
山桜会90周年式典積立		1,000,000	—
小計	21,605,000	18,539,899	1,065,101
次期繰越金	34,834,582	33,136,198	1,698,384
合計	56,439,582	51,676,097	2,763,485

財産目録

(平成18年3月31日現在)

【資産の部】

(単位:円)

科 目	金 額	内 容
現 金	367,521	
普 通 預 金	29,567,392	三井住友銀行 茨木支店
山 桜 会 基 金	10,000,000	三井住友銀行 茨木支店
郵 政 事 業 庁	3,959,600	
普 通 預 金	36,622,567	りそな銀行 茨木西支店
金 銭 信 託	10,000,000	山桜会基金引当特定預金 りそな銀行 茨木西支店
普 通 預 金	6,000,024	追手門学院120周年基金 大阪市信用金庫 高井田支店
普 通 預 金	2,000,008	山桜会90周年基金 大阪市信用金庫 高井田支店
資 産 合 計	98,517,112	

【負債の部】

(単位:円)

未 払 金	1,379,931	ヤマト運輸(株) 会報76号郵送料
差 引 総 合 計	97,137,181	

山桜会基金現在高

(平成18年3月31日)

前 年 度 末 現 在 高	46,622,215 円
今 年 度 繰 入 額	10,000,000 円
本 年 度 利 息	238 円 (前期)
〃	114 円 (後期)
今 年 度 末 現 在 高	56,622,567 円

積立金現在高

(平成18年3月31日)

前 年 度 末 現 在 高	4,000,000 円
追手門学院120周年基金積立	3,000,000 円
山桜会90周年基金積立	1,000,000 円
本 年 度 利 息	16 円 (後期)
〃	16 円 (後期)
今 年 度 末 現 在 高	8,000,032 円

ペイオフに伴い一部預金金額を、預金の安全性を確保する為、普通預金口座へ入金をしています。

平成17年度の山桜会収支計算書、年会費収支報告書、財産目録を監査した結果、適正に作成されているものと認めます。

平成18年6月1日

監 事

岡本 一

監 事

大井 雅雄

伝統の継承 [体育大会]

小学校 校長 津田 克彦



10月4日(水)大西義夫様をはじめ55期生12名の方々が小学校を訪問してくださいました。新しくなった母校の校舎を森教頭と共にご案内しました。記念ホール、記念室、高島ホール、1年生の教室等を1時間ほど見学されました。

以前の講堂の物を利用しているホール入り口の照明をご覧になり「天井にこれあったな～」とか「ここには講堂と道場があった!」と懐かしむ声。「我々のころは寒稽古をしていたんですよ。」と言うお言葉に「今でも行っております。芋粥も昔と同じです。」とお答えすると「伝統を受け継いでくださっているんですね。うれしいです。」とおっしゃっていただきました。我々もそういうお言葉が大変励みになります。小学校は118年の伝統を守っています。それはその伝統に現在の教育的価値を見出しているからです。

10月8日(日)天候に恵まれ、爽やかな秋空の下、秋季体育大会を行いました。本校の体育大会は伝統の行進から始まります。9月中旬から始めた朝の全体練習ではほとんどを行進の練習に費やします。はじめは手の高さを揃え



ます。6年生であっても、1年生であっても自分の目の高さまで手を上げます。つぎに姿勢です。背筋をびんと伸ばし、肘や指先まで意識して行進します。そして視線、前の友達の帽子の天辺を見つめます。最後に全員が揃うところまで繰り返し、繰り返し練習するのです。はじめは上手くできない低・中学年も6年生のお兄さん、お姉さんを真似てなんとかがんばります。体育大会当日、全校児童の「やろう」という気持ちが一つになったとき行進は完成するのです。なぜそこまで行進にこだわるのか?それは行進の中に「剛毅」の精神を見ることができるからです。今の子ども達は「一生懸命する」「がむしゃらにやる」「夢中になって取り組む」という気持ち、そしてその気持ちを表現することの大切さを失いつつあるように思うのです。子ども達の人生にとったら行進なんて些細なことでしょう。しかし、力一杯行進したという経験は一生の宝物になると信じています。そして、この行進は何十年も続いている伝統がなせる業なのです。

55期生の皆様との会話の中に「竜虎搏つ」のお話も出てまいりました。今は風船をつけていますが、当時は竹の棒をつけて野試合を行っていたそうです。しかし、55期(それ以前から)の先輩と63年経った118期生(そして今後も)が同じ競技を行っているのです。お祖父さんからお父さん、そして子ども達へと脈々と剛毅の精神が引き継がれています。5・6年生の騎馬戦もそうです。危険防止のために他校では止めつつある中で本校は落しあいの騎馬戦を行っています。(もちろん安全対策には十分配慮した上で)3年生の綱引き、4年生の棒引きもずっと続けています。新しいものに目を向けないのではなく、それらの種目が剛毅の育成に最高だと考えているからです。そのこだわりを、先生方、子ども達、そして保護者の方々をはじめとした関係者一同が持ち続ける以上、追手門学院小学校は光り輝いていると信じています。



あなたを伸ばします

大手前中学校・高等学校教頭 南 登章生

まさに、本年は和歌山も加わり「近畿統一入試」の幕開け。1月20日の入試解禁日を外す学校の減や二日入試から一日入試に変更する学校など、レベルの高い生徒を獲得するためのあらゆる画策が繰り広げられています。本年度も昨年度と同様、大阪にはより順風の入試は予想されはするものの、昨年度の一部高レベル校での易化に味を占め、よりチャレンジ入試が進むものと思われそうですが、元気な中学は約半数程度、教育力そしてその成果である進学実績によるものです。

今、山桜会皆様のお支えもあり、生徒の頑張りから偏差値を10～15程度伸ばすと、「温かく穏やかに伸ばす名門伝統校」として、我が追手門学院大手前中・高等学校は注目校でもあります。本校のホームページ掲載の中学1年150余名の5泊6日の12時間夏期勉強合宿などは壮観です。

本年の入試では、本校への志願者増によるレベルアップを考えて、「特進」

本年度の中学校・高等学校入試について

2クラス。高校でも、専願入試のみではなく、「併願入試」も認知されています。中学高校とも、外部や学内での入試説明会も好調で、中学の学内入試説明会では、昨年度の倍となる来校者数、駿々堂模擬試験での志願者数も倍近くの数値、プレテスト参加申し込み数でも早い時期から昨年度の数字を遙かに上回っています。

本年は、特進を2クラスとしたことや志願者動向予想などからも、志願者増が考えられ、大手塾からも合格者の最低点が大幅に上昇し、飛躍の年と言われています。確かに、最近では、志願者として低かった時とは異なり、第二・第三志望としてではなく第一志望者が増加しつつあり、特にB日程1月22日の午後入試が大いに難化すると予想されています。C日程は若干名で欠員補充程度。是非、A日程でのご受験をお願いします。

皆様には、名門伝統校の復活のため、更なるご支援をお願い申し上げます。

中学校入試

●募集クラス・募集人数

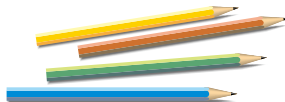
特進 約35名×2クラス 進学 約35×2クラス

●入試日程・出願・発表

中学入試 A日程	1月20日(土) 9:00～
出願	1月 5日～1月18日 事務室のみ郵送不可 午前9時～午後3時 土日祝日も受付
発表	1月21日 午前10時～午前11時 学校手渡
中学入試 B日程	1月22日(月) 15:00～
出願	1月 5日～1月22日 事務室のみ郵送不可 当日15時 午前9時～午後3時 土日祝日も受付
発表	1月23日 午前10時～午前11時 学校手渡
中学入試 C日程	1月25日(木) 9:00～
出願	1月5日～1月25日 事務室のみ郵送不可 当日9時 午前9時～午後3時 土日祝日も受付
発表	1月25日 時刻電話

●入試科目

全日程	①国語 45分・100点
	②算数 45分・100点
	面接



高等学校入試 専願・併願

●募集クラス・募集人数 外部より、専願・併願 併せて約50名

- ①特進クラス……………国公立大学進学
- ②進学文理クラス……………難関私立大学進学
- ③国際留学クラス……………10ヶ月間の英国または豪州の留学
- ④文系総合クラス……………総合文系・起業家育成

●入試日程

高校入試 1次	2月 9日(金)・2月10日(土)
出願	1月26日～2月3日 事務室のみ郵送不可 午前9時～午後3時 日曜不可
発表	2月10日(土) 夜 書類郵送

●入試科目

国語・数学・理科・社会・英語〔45分／各100点／500点満点〕・面接

●1.5次

2月15日 国語・数学・英語〔45分／各100点／300点満点〕・面接

●2次

3月26日 国語・数学・英語〔45分／各100点／300点満点〕・面接

お問い合わせ

教頭 南 登章生 まで

〒540-0008 大阪市中央区大手前1-3-20 06-6942-2235 <http://www.otemon-js.ed.jp>

お知り合いの御方がいらっしゃいましたらご紹介下さい

医療法人 信和会
塩見 医院

内科 循環器 在宅診療



理事長 **塩見 啓二**
(小85期 大中高28期)

大阪市港区市岡元町2-11-4

TEL (06) 6586-5000

FAX (06) 6586-5001



私たちは、食を通じて社会に貢献します



サトレストランシステムズ 株式会社

代表取締役兼執行役員社長 重里 欣孝
(大高24期)

〒590-0001 大阪府堺市堺区遠里小野町一丁3番11号
Tel.072-227-5901
www.sato-restaurant-systems.co.jp



日本鏡板工業株式会社

〒555-0012

大阪市西淀川区御幣島6丁目12-12

<http://www.nkweb.co.jp/>



入試広報便り

中学校・高等学校(茨木)教諭 入試委員長

昨年度に引き続き、入試委員長の仕事をさせてもらっています。高校・中学の責任者としては住谷・谷川両先生が引き続き、その任にあたっています。

さて、昨年度の中学入試では、近畿が統一日程となり、それぞれの学校の入試に大きな変化が出ました。毎年早期に入試を実施していた奈良県の学校の動きが目撃されましたが、本校への直接的な影響はありませんでした。しかしながら、全体的に入試日程がコンパクトになったことの影響は見られました。A日程とB日程を連続日程にしましたが、ダイナミックコースの志願者はA日程に集まり、B日程にはアカデミックコースの志願者が多く集まりました。A日程のダイナミックコース志願者の入学率が高く、今年度も34名とほぼ定員近くの生徒を得ましたが、B日程のアカデミックコース志願者の入学率が低く、24名でのスタートとなりました。数年来、ダイナミックコースの生徒はほぼ定員を満たすところまで来ていますが、他校との競争が激化するアカデミックの生徒確保が、課題として残りました。幸い、『別冊週刊ダイヤモンド』をはじめとする雑誌の特集記事でも、本中学校は、学力を伸ばす学校として評価され、今が旬の「お得な学校」として取り上げられています。六年制一貫コースの生徒がこの春に卒業することもあり、ぜひとも注目していただけるような結果を出し、安定した生徒確保へつなげたいと考えています。

中学校 平成19年度入試要項

- 募集人員 アカデミックコース35名(男女)、ダイナミックコース35名(男女)
A・B両日程で 約60名(男女)(両コース合わせて)
C日程で 約10名(男女)(両コース合わせて)
- 入試日 A日程 : 1月20日(土)
B日程 : 1月21日(日)
C日程 : 1月25日(木)
- 入試科目 A日程 : アカデミックコース 国・算(各100点、各50分)、理・社(各50点、各30分)
: ダイナミックコース 国・算(各100点、各50分)
B日程 : 両コースともに 国・算(各100点、各50分)
C日程 : 両コースともに 国・算(各100点、各50分)
- 面接 あり (面接官2人と受験生1人)
(出願の際には保護者面談も行います)
- 出願期間 A・B日程 : 1月9日(火)～1月17日(水)(午前9時より午後3時まで)
C日程 : 1月15日(月)～1月24日(水)(午前9時より午後3時まで)
(ただし、日・祝日を除く)
- 合格発表日 A日程 : 1月21日(日)電報
B日程 : 1月21日(日)電報
C日程 : 1月25日(水)電報
- 追加募集 未定
- 入学手続き締切日
A日程 : 1月23日(火) (午後3時まで)
B日程 : 1月23日(火) (午後3時まで)
C日程 : 1月26日(金) (午後3時まで)
- 入学者登校手続日 2月 3日(土) 10時集合(本人が保護者同伴で登校)
- 必要書類 願書、写真2枚(3×4cm) 受験料 20,000円(郵送料別)

中学校・高等学校(茨木)入試について ～今年度の取り組み～

木内 淳詞

昨年度の高校入試では3年連続で1200名以上の志願者があり、最終的には8クラスの入学者を迎えることができました。併願者の戻り率は前年度に続いて13%でした。中学や塾の先生方から、「追手門に合格すれば、公立入試ではレベルの高い学校にチャレンジする生徒が多くなった」という声を聞くようになりました。一時のような、「なにがなんでも公立」という流れはおさまりつつあるようで、併願の受験生にもうまくアピールすることの大切さを実感しています。特に、来年度からの公立の動きとしては旧1・2学区が合併され、新1学区ができます。北野高校と茨木高校のどちらも受験可能となります。現段階では本校入試にどのような影響が出るのかわかりませんが、このような変化をチャンスだと捉えて、募集活動を続けていくことが大切だと考えています。

一方、昨年度の大きな課題としては、専願受験生の減少があります(前年度比47名減)。入試関連のイベントでの動員数は前年度を凌ぐほどの勢いがあったのですが、それが専願での受験につながりませんでした。本校の教育改革も新しいステージを迎えています(新校舎建設も決まりました)ので、古くて新しい学校、男女共学の明るい進学校として、追手門学院中・高等学校の魅力さらにアピールできるよう、努めてまいります。山桜会員の皆様のご支援をお願いいたします。

高等学校 平成19年度入試要項

- 募集人員 240名(男女)
英数コース 80名(男女)
理数コース 40名(男女)
総合文理コース 120名(男女)
(含 六カ年一貫コース 71人)
- 入試日 2月9日(金)
- 入試科目 英・国・理・数・社(各100点、各45分)
- 面接 専願 一人3～5分、全員行います
併願 必要に応じて行います
- 出願期間 1月29日(月)～2月2日(金)(午前9時～午後3時)(郵送不可)
(①専願・併願いずれかで受験してください)
(②英数コース・理数コース志願者は、第2、第3志望を記入可
ただし、第2志望が総合文理コースの場合、第3志望は出せません)
- 合格発表日 2月13日(火)郵送
- 2次募集 府立高校合格発表日に決定
- 入学手続き締切日 専願 2月16日(金)
併願 府立高校合格発表日(3月23日(金)午後1時～3時)
- 入学者登校手続日 専願 2月17日(土)10:00～および府立高校合格発表日
併願 府立高校合格発表日(3月23日(金)午後1時～3時)
- 必要書類 願書、個人報告書、写真2枚(横3.5～5×縦4.5～5cm)
受験料 20,000円(郵送料別)
- 入試説明会 ※072(643)1333にお電話での発車時刻をご確認の上、スクールバスをご利用下さい。
12月2日(土)10時～12時 ※予約が必要です
阪急石橋 8時50分 千里中央 9時10分 北千里 9時15分
阪急茨木 9時10分 JR茨木 9時20分

ぼん繁

天満橋本店 〒540-0008 大阪市中央区大手前 1丁目6-7 TEL 06-6943-9361	北 浜 店 〒541-0041 大阪市中央区北浜 2丁目2-22北浜中央ビルB2 TEL 06-6231-9801
--	--

繁 蔵 本店
 〒540-0032
 大阪市中央区天満橋京町2-15
 岡本ビルB1F
 TEL 06-6943-1446

有限会社 ぼん繁 代表取締役 本田 司郎

〒540-0008 大阪市中央区大手前1丁目6-7

TEL 06-6943-9361 【事務所】TEL 06-6941-4646

FAX 06-6941-5845

bonsige@livedoor.com shige_zo@livedoor.com

http://www.yukita.co.jp/

日本をはじめ海外、アメリカ・ヨーロッパ等に活動している方々を応援しています。

人と情報・エネルギーの国際交流をサポートします。

行田電線株式会社

本社/大阪市城東区古市1丁目2番11号
TEL(06)6933-5811 FAX(06)6934-7335

支店/東京 海外/香港・上海・外高橋(上海)・シンガポール
海外工場/上海・滁州(安徽省)・深圳(広東省)

何でもあります 高17期卒 嶋野 義夫

ダントツの3000坪

●生活家具から調度家具まで●

家具のやおもく

日本一の安さ!	結婚家具 200組	配送・組立無料 ※遠方・海外は別途送料がかかります。
日本一!!	BED 300台	
3年連続日本一!	学習机 200台	

カリモク コスガ マルニ 浜本工業 シモンズベッド フランスベッド

ご愛読者・関係者及びご紹介の方へ
一流ブランド オール3割引
輸入家具も特別値引き

大阪府八尾市光南町2丁目41 外 池田・寺園・辻野

フリーダイヤル 0120(555)703

ブルガリの軌跡と奇跡

イタリア共和国功労勲章・コメンダトーレ章を受章して

小61期 深江 賢

「今、ブルガリで仕事をしています」

「あのヨーグルトの…」

「いえ、イタリアの宝飾です」

「ああ、ブルガリアの、ね」

1991年にブルガリ・ジャパン社が設立され、私がその代表取締役・COOに就任して以来、名刺を交換したり、自己紹介したりするときに、今なら大笑いするようなこんな会話が日常茶飯事のかかわされたものでした。私たち戦前生まれで、いわゆるスーパーブランドを知っているのは極めてまれなこと。こんなやりとりは3、4年ほどつづいたでしょうか。こんなとき、はじめのうちこそ、このような反応に真真正直にブルガリの説明をしていたのですが、そのうちに若い人のファッション感性和情報をうまく利用するいい手をあみだしました。「マア、家に帰ってお嬢さんか、息子さんに聞いてごらん」と言うことにしたのです。効果はテキメン。次に会った時には見事にちがった反応が返ってきたのです。

今から見れば90年代はブランドの再編成の時期だったでしょう。狂乱のバブルで翻弄されズタズタになったスーパーブランドや、ブルガリのように後発ゆえにその洗礼を免れたものが、バブル後遺症の中で新たな覇権を求めて動き始めた中で、ブルガリの成長の軌跡は、数多のブランドの中でも奇跡といって良いほどの鮮やかなものでした。ヨーロッパの王侯貴族や富裕層だけに知られていたブランドを、21世紀初めには、大抵の人が知っているスーパーブランドへ。わずか10年足らずで10倍に、家業から企業へと成長した坩堝のような環境の中核に身を置くことができたのは望外の幸せで、私のビジネスマン人生の中で最も充実した時といって過言ではありません。このブルガリ

には14年在勤し、ブルガリグループ中、本社専務格以上で職務を全うしてリタイアした第一号となりました。転職が常態の日本在外資企業の日本人トップとしても最も長いキャリアだったと思います。

昨年11月、平素からお付き合いのあるマリオ・ボーヴァ駐日イタリア大使から「長年に亘る日本でのイタリア製品の普及・促進活動への貢献が評価され、チャンピ大統領から〈イタリア共和国功労勲章・コメンダトーレ章〉が授与されることになった」との公文書が届きました。まさに青天の霹靂。日本はおろか、外国での叙勲などまったく縁の無い本人は「有難うございます」程度の軽い気持ちでしたが、イタリアや海外の仲間たちが「とんでもない勲章だよ」と大騒ぎをしてくれ、はじめてその重さに気づかされた次第です。確かにネットで調べてみると、最高位の大十字勲章に次ぐもので、文化、外務関係などはまだしも、商業関係の受章者は過去に日本で数少ないことが分かったことでした。

このブルガリを含め、その前は87年からジョルジオ・アルマーニ・ジャパン社で4年、05年からア・テストーニ・ジャパン社で2年と、在日イタリア企業でトップとして併せて20年の活動の中で、このような評価をいただいたわけですが、これはまさに「天の時・地の利・人の和」に恵まれたことに尽きると考えています。特に小売・サービスの世界における人の重要さは計り知れず、ともに仕事をした仲間達をはじめ、数え上げればキリが無いほど大勢の人々にサポートされ、私はいわばその総代として叙勲したものだと認識しています。

最後に、このような機会を与えていただいた山桜会にお礼を申し上げるとともに、この5月、東京山桜会総会でこの叙勲をご披露いただきましたことに、この場をお借りして改めてお礼申し上げます。

◆天神祭◆ 第3回学院奉拝船

120周年記念事業のひとつである天神祭「第3回学院奉拝船」が7月25日出船されました。大木理事長、鈴木学院長、各校長教頭、大学校友会、PTA、山桜会からは川原会長はじめ数名、記念コンサート指揮者の湯浅卓雄(小72期)さんも乗船されまじくオール追手門が集いました。今年度は茨木中高がお世話係を担当。ありがとうございました。大学卒業生父母の会会長羽田奉拝船実行委員長の船渡禦の説明とリードですれ違う船と大阪締めを交わし、なにわのアナウンサー寺谷一紀(小88期)さんの軽妙な司会、ジャズバンドの軽快な音楽、迫力ある花火、川風が心地よく、別世界の3時間でした。



赤松 照夫

(小43期)

元追手門学院理事
元校友会山桜会副会長
現校友会山桜会顧問

大阪市中央区上町一丁目一八四
〇六―六七六―〇七八四



弁護士法人
川原総合法律事務所
Kawahara Law Office

弁護士 川原俊明
(小71・中高14期)

弁護士 中村信仁

弁護士 稲永泰士

弁護士 中橋 敦

弁護士 杉本智則

弁護士 箸尾朋典

弁護士 菅原謙太郎

〒530-0047 大阪市北区西天満2丁目10番2号 幸田ビル8階
TEL: 06-6365-1065 (代表) FAX: 06-6365-7265
IP電話: 050-5520-4503
E-mail: kawahara@e-bengo.com
http://www.e-bengo.com

外科・内科・胃腸科・肛門科
リハビリテーション科

香山医院

院長 香山 仁志
(小85期 大中高28期)

〒552-0007 大阪市港区弁天4-15-14

TEL: 06-6573-3000

http://www.shop.upstart.co.jp/kayama

地下鉄中央線、JR弁天町駅 徒歩5分

花影アリスさんを 応援する会

「花影アリスさんを応援する会」を山桜会会員有志で寶来扶佐子さん(小77、大中高20期)会長のもと立ち上げております。花影アリスさんは追手門学院小学校、大手前中学校を卒業し、宝塚音楽学校の難関を突破、ストレートで合格し、現在宝塚歌劇団宙組に所属し、若手娘役で活躍中です。政界、財界の著名人で構成する公認ファンクラブ「愛宝会」が年間を通じて活躍した入団3年目の娘役に贈る「すみれ賞」を受賞し、8月のパウホール公演「UNDERSTUDY」ではヒロインを演じるなど、将来のトップスターへの道を歩んでいます。応援する会では7月にホテルモントレにおいて花影アリスさんを囲むお食事会を開催し、2曲歌を披露していただきました。ソプラノの澄んだ声、大きな愛らしい目、顔が小さく手足が長く、華奢。かわいさだけでなく透明感のある凛としたところも持ち合わせ、一度ごらんになったら

絶対ファンになること間違いなしです。11月の宙組本公演では坂本竜馬の時代物で高杉晋作をささえる愛人「おうの」という重要な役どころのアリスさんを80席を確保し大挙して見に行きました。山桜会会員の皆様、今後益々活躍する花影アリスさんに注目し一緒に応援をお願いします。(掲載写真は「UNDERSTUDY」舞台写真です。会長とともに写る素顔の花影アリスさんをwww.yamazakurakai.com/山桜会ホームページ「会長7月の挨拶」の中に掲載しています。)

小80大中23茨高23期 松本 暁子

のじぎく兵庫国体

に母校在校生が2名出場!



今秋開催されました、のじぎく兵庫国体に中高等学校から馬術競技に高校3年生の今井佳奈さんが、大手前中高等学校からサッカーの競技大阪府代表チームに高校1年生の中東優治君が参加されました。

山桜会ではその栄誉をたたえ、応援の横断幕を作成し贈呈いたしました。



今井佳奈さんの国体出場の日程

場所	三木ホースランドパーク	馬場馬術競技会場
日程	10月8日(日)第17競技	少年 標準障害飛越競技
	下見予定時間(13:35~13:45)	競技開始時間(13:50)
	10月10日(火)第22競技	少年 トップスコア競技
	下見予定時間(7:45~7:55)	競技開始時間(8:00)



今井佳奈さんの国体の写真です。
5位入賞です、喜んでいらっしゃいました。



中東優治君の国体出場の日程と結果

場所	淡路佐野運動公園	少年サッカー
日程	10月1日(日)大阪 Vs 長野(6対0)	
	10月2日(月)大阪 Vs 千葉(0対1)	

鈴木内科クリニック

内科 循環器科 呼吸器科

院長 鈴木 緑郎
(大手前中23期)

医学博士・循環器学会専門医・腎臓学会専門医

診療時間	月	火	水	木	金	土
午前9:00~ 午後1:00	○	○	○	○	○	○
午後4:00~ 午後6:30	○	○	×	○	○	×

〒534-0024
大阪市都島区東野田町2-9-7 K2ビル1階
TEL: 06-6351-1002

壺内歯科

歯科・予防歯科・審美歯科・歯科口腔外科・矯正歯科
小児歯科・(歯周病・インプラント・ホワイトニング)

院長 壺内 豊
(小85期・茨中8期)

お問い合わせは

〒542-0076
大阪市中央区難波5-1-60 なんばCITY東ビル2F
TEL: 06-6648-1177

http://www.myclinic.ne.jp/tsubouchi_dc/

nextTAK

時代が求める機能配管をトータルプロデュース

株式会社 多久製作所

本社
〒577-0012
大阪府東大阪市長田東2丁目2番1号 木村第1ビル
TEL (06) 6746-4620
<http://www.tak-ss.co.jp>

山桜会 90 周年記念 太平洋戦争中及び戦後の 偕行社付属小学校と追手門学院

小59・中2 秋山 陽彦



▲ 筆者 一年生

初めに

今日隆盛をきわめる我が追手門学院にも、太平洋戦争中や終戦後には存亡を賭けた苦難と激動の時代があった。われわれはそのただ中を先生や保護者と共に懸命にくぐり抜けて来たが、残念なことにその時代の記録はほとんど残されておらず、当時在学したわれわれが高齢化していけば記憶は永遠に忘れ去られてしまうことになる。これは追手門学院にとっても私共にとっても大きな損失であると思う。山桜会90周年、更に学院創立120周年を迎えるにあたり、過去のこういう一時代の延長の上に今日の追手門があるのだということを是非知って置いて頂きたいと考え、拙文を寄せることにした次第である。

入学から疎開まで

入学

我々59期生は昭和17年、大阪偕行社学院に入学した(前年まで大阪偕行社付属小学校とよばれていた)。太平洋戦争が始まってまだ半年たらず、戦況は右上がりまさに軍国色真っ只中で、規律は非常に厳しく先生は皆こわかった。私は幼時から弱虫で、一年生になっても動作がのろく運動も出来ず、叱られてばかりいた。

登校

偕行社前(京阪東口)で市電を降りると、居合わせた生徒の中の高学年の人が小隊長になって隊列を組んで登校する。校門前で「歩調とれ」、「止れ」、校章に「敬礼」し更に校舎の東南の角を曲がって運動場の向こうの奉安殿に向かい「敬礼」、昇降口で解散する。

上町筋や京橋口の坂は今と同じだが、市電が走っており、滑り易かったのが当時荷物を運搬していた馬車が坂を登れずよく立ち往生していた。「小隊長」の命令一下、皆であと押しをして馬方さんから感謝された。雨が降っても外套は着るが傘はささない。兵隊さんと同じである。場所柄しばしば将校さんに出会う。敬礼をすると将校さんにもこやかに敬礼を返してくれるのがたいへん嬉しかった。

運動場

登下校以外は全員はだしである。霜の降りた朝、雪の日など本当につらかった。(何故か先生と週番は靴をはいていた。うらやましくて早く高学年になって、週番になって運動靴をはきたかった)全生徒が運動場に整列し朝礼、「金剛石」と「偕行社付属小学校校歌」を歌う。校長先生は山口大佐であった。終わって全員運動場に散らばり、一人何十個かずつ小石を拾う。清掃と、はだしで怪我をしないようにと考えられたのだろう。これは大変効果的であった。この伝統は現在もなお続いているという。素晴らしいことだ。全員はだしだから、足をきれいに校舎に入るために昇降口の左側に「足洗い場」があったのである。

中庭

今の中庭より狭かったが、北寄りには睡蓮が咲き鯉が泳ぐ美しい水槽があり、南の方には布張りの翼が銀色に塗られた複葉機の練習機が置いてあった。誰でも自由に乗ることが出来、操縦桿や方向舵を動かすこともできた。自分で動かせる機械が少ない校内では大変人気があり、いつも生徒であふれていた。

せいじつ ごうき

校歌は口伝に近かった。「日々の努めに誠実剛毅、自治の教を守りつつ」歌詞をもらっても読めない。「ヒミソツミニ、セイシツゴウキツ、ジジノオシヘヲ…」。ゴウキツではなく、ゴウキ! と山田先生によく叱られた。結局大人になるまで何のことかわからなかった。しかし、陸軍に関連のある学校がこの精神を掲げていたことは特筆に値する。学校は「自治」を守るためしばしば偕行社と衝突したこともあると聞いている。この精神は時代にそって少しずつ形を変えながら今日まで脈々と受け継がれている。

勅語

式典がある度に勅語が読まれた。講堂の壇上に奉安所があり、御宸影と勅語が祀られている。全員起立、最敬礼の中、教頭先生が白手袋をして恭しく勅語を取り出し校長先生に渡す。校長先生は巻物を解き、抑揚のないしかし厳かな声で読まれる。皆頭をたれて聴く。何のことかわからない。とにかく頭を上げてはならない。絶対に見てはいけない。そんなことをしたら「時計の裏の部屋」へ入れられる。校長先生が「御名御璽」か、「全くせむ事を期せよ」と言われたら終わりだと教えられた。「御名御璽」が終わって長い長い巻物を校長がゆっくりと巻き戻され、奉安所にしまわれ、扉が閉められて御宸影が見えなくなって初めて頭を上げられる。本当に長かった。あとで知ったのだが、御宸影の真上にあたる屋上には立入禁止の柵がしてあった。

教室、授業

校舎は鉄筋コンクリート造、当時としては抜群のもので床、柱、窓、階段、机、など何れもすばらしい材質で、水洗トイレ、スチーム暖房も完備していた。特に音楽教室、理科室などの設備は目を見張るものがあった。道場(体育館)にはヨーロッパ式の運動用具が完備していた。武器庫の銃架には教練用だがピカピカに手入れされた小銃が数十丁、整然と並んでいた。また教室や廊下は塵ひとつ無く、いつも油拭きされていた。

ポケットに手を入れてはいけない、廊下を走ってはいけない、授業中は便所へ行ってはいけない、弁当は早く食べなければいけない、椅子に座るときは背筋を伸ばして手は膝、挙手はゲンコツで挙げる等々いろいろな規則があった。弁当の前には級長の号令で全員が「皇恩を感謝し、大御心を戴いて魂を磨き、体を鍛え、正しく強い日本人になります」と大きな声で言うから聞いた。弁当を食べるのが遅いとそれだけ昼休みは少なくなる。

授業も当然厳しかった。先生は棒、平手、時には飛び道具(チョーク等)で怠けている生徒に注意されるのが常であった。生徒は皆痩せていたが、輝いた目で背筋をしゃんと伸ばし昂然としていた。弱虫の私はいつも叱られてばかりで落ち込んでいた。今ならカウンセラーがつくところだろう。もしこういう生活が長く続いていたら破綻していたかも知れない。幸か不幸か、戦争が激化していった。

供出

戦況が不利になり、兵器や弾丸にする金属が足りないということで、金属、貴金属類の供出がひろく求められた。学校も当然これに協力した。楠木正成の銅像、スチーム暖房の装置、偕行社の塀の飾りなどが供出された。

しかし、何故か中庭の鐘、階段の飾り金具、本館の灯具や講堂のシャンデリア等は残った。講堂の灯具はいま本館に移されている。



▲戦中の学校(昭和19年)

疎開

昭和19年、都市への無差別爆撃が始まると、学校もいつ爆撃されるかわからないというわけが都市の学童は皆疎開することになった。わが偕行社学院もその例にもれず、箕面、枚岡の旅館や学校などに疎開した。一部の人は香里にも行ったようだし、家の事情で疎開できない人は大阪に留まった(これを残留組といい、以前と同じように学校にかよっていた)。私は箕面組だったが、桜井の借家から通学していた。寮は箕面駅から滝道を1キロ余り上った箕面川ぞいの二軒の薄暗い旅館だった。家から桜井まで1キロ、箕面の駅からまた1キロの上り、やっと寮に着いても「教科書のここからここまで書き取りをやっとけ」といって先生は居られなくなる。書き取りが終わると薪運び、寮から更に滝道を数キロ滝の上まで登って薪を運んで来る。薪と言っても1メートルほどの丸太で、子供がやっと一本抱えられるほど重い。坂道を転がしたり、崖から下の道に落としたりしながら寮に運び込む。これが午前、午後一回ずつ。あとはまた書き取り。それから寮の前の川まで列を作ってバケツリレーよろしく水汲み。これで一日の日課が終わる。宿題など出たこともなかった。

山道を下って箕面の駅から電車で桜井に着くと、近くの公立小学校の悪ガキ共がたむろしていて何かと因縁をつける。これをごまかしたりまわり道をしたりしてたくたになってやっと家にたどりつく。こんな毎日のおかげで足だけは丈夫になった。余談になるが、虚弱児だった私が元気になったのは疎開中の粗食と、ひたすら足を鍛えられた事によると今も思っている。

寮でのエピソード

「僕は乞食です」「僕は乞食です」

こんな妙な声が、湿りきった薄暗い廊下からせせらぎの音に混じって聞こえてきた。私のように家から通学して来る生徒を通学生、寮に寝泊まりする生徒を寮生と呼んでいた。寮生は人間とは思えないような物を食べさせられ、しけた量に寝かせられ、夜ごと布団に地図を描いていた。昼の時間になると、食料事情が悪いといってもまだまともな弁当を詰めてもらって来る通学生に弁当を分けてもらいにくる。それを見つけた先生が考え出したのが「僕は乞食です」であった。犯人たちを廊下の板敷ぎに座らせて大声でいわせるのだ。こんな屈辱に耐えながらも彼らは立派に生き延びた。一方、廊下の外れの一室にはどこからともなく白いご飯や肉や砂糖が持ちこまれ、宴会が行われることもあったという。

田舎ぐらし

桜井の家の前は広い畑で、夏になるとトマトがいっぱい実った。畑に忍び込んで寝転ぶと外からは見えない。夏空を眺めながらトマト食べ放題を楽しんだ。もちろんお百姓さんに見つかって逃げ出すことになる。桜井の駅に行く途中の箕面川には鮎が泳いでおり、夏の夜は何万とも知れぬ蛍が乱舞した。

中を走り抜けるシャツの中まで蛍が入ってきた。竹やぶへタケノコを掘りに行って地主さんにとちめられ、母が謝りにいったこともあった。食べ物、とくに米がほとんどなかったので豆で増量した。配給の米を一升瓶に入れ、棒でついて糠をとるのは私の仕事だった。サツマイモの蔓を、皮をむいて炒めて食べていた。イモの蔓の皮むきを手伝うとあくで手が真っ黒になった。たまに米だけのお粥が出るど狂喜したものである。いつのまにか虚弱児は遅くなっていた。

空襲

疎開していたので、直接の体験はない。幸運であったと言うほかない。大阪の家が焼けたのも知らなかった。父も出征して不在だった。夜大阪の空が真っ赤に染まり、



▲戦後の学校(黒い部分は爆撃の穴を埋めた跡)(校舎の汚れに注目して下さい)

雨のように焼夷弾が降るのが見えた。美しい花火を見ているようだった。探照灯の光が交差し、盛んに高射砲弾が撃たれたが敵機のほうが遙かに高く、全然当たらなかった。大空襲の時には、沓圓札の焦げたのや大事な書類の焼けたのが飛んで来て、あと決まったように黒い雨が降った。

箕面の山の中にB29が落ちたことがある。すごい音がした。友達が何処から「防弾ガラス」のかけらというのを拾ってきた。プラスチックというものを始めて見てたいへんなショックを受けた。焼く甘い匂いがして気分が悪くなった。こっぴどく叱られた。時々アルミ製のリボンの塊が空から降ってきた。米軍が電波の攪乱のために撒いたものらしい。キラキラ光るので、お百姓さんが田圃の周りに張って雀よけにしていた。

終戦の日

ぬめりような夏空だった。何故かいつも当たり前のように聞こえて来るB29の爆音が聞こえない妙に静かな朝であった。警報が出ていたので、朝から家にいた。

昼、ラジオで天皇陛下のお話があり、皆で聴いた。何を言っておられたのか全然わからなかったが、母に聞くと戦争に負けたいらしいということだった。やっぱりそうか、どうせこうなるだろうという感じだけで、負けて口惜しいという思いはなかった。これからどうなるのだろうかということなど頭に浮かばなかった。あの真夏の一日、そのあとどうしたか覚えていない。

戦後

■ 帰校

疎開先から学校へ戻ったのは、正確には覚えていないが昭和20年11月頃だったと思う。大阪の家は焼けてしまったので、まだ桜井から通学していた。あとで考えてみると、疎開していたのは1年そこそこの短期間だったが、あまりにも印象が強く何年も箕面にいたように思われた。久しぶりに学校へ行って目を疑った。建物が残っている! 窓ガラスは全部割れ、壁は偽装の墨で真っ黒になり、あちこちヒビが入っていたが壊れずに残っている! なぜか兵隊さんが大勢いた。屋上に上がって見た。まわりは見渡す限り瓦礫の山、砲兵工廠がない、生駒がくっきり見える。京橋口の石垣の上の櫓もない。西の方を振り返ると偕行社も破壊されて暖炉の2本の煙突の煉瓦積みだけが寂しく残っている。大手前会館も中がすっかり焼け落ちてがらんどうだ。お城の方を見ると濠を隔てた向こうの「乾の櫓」は半分壊れ、石垣の角は崩れ落ちていた。しかし…どうして学校だけが残ったのだろうか? 嬉しかった。思わず涙が出た。それにしても学校の建物だけを残して周りを全部破壊するほどアメリカ軍の爆撃は正確だったのだろうか? それとも単なる偶然だったのか?

今となっては神のみぞ知ることだが、わが追手門にとってこれほどの幸運はなかったと思う。

だが改めてよく見るとやはり惨憺たるものであった。運動場の東南、ちょうど滑り台の前あたりに巨大なすり鉢状の穴がポツカリとあいていた。500キロ位の爆弾が落ちたらしい。もし50メートル西に落ちていたら…学校は跡形もなかっただろう。校内に入ると中は真っ暗、屋上の東北にも穴があいていて3階の教室から青空が見えた。弾は屋上を突き抜け、3階の床を焦がし、コンクリートを割って止まっていた。焼夷弾が直撃したらしい。中庭の練習機も焼けて無残な骨だけになっていた。

学校には帰ったが何もすることがない。友達とむしろを持って行って運動場の
大穴の縁から底まで代わる代わる滑って遊んだ。底から上を見ると空だけしか見
えなかった。滑り降りるのはいいがまた登って行くのがたいへんである。30度近
い斜面だったろう。でも、飽きもせず何度も繰り返した。破壊された偕行社の跡
も入り放題で、焼けた小銃弾が無数にあった。中には機関銃弾らしきもので交
じっていた。珍しいので家に持って帰っては叱られたのをおぼえている。校舎の
内部が焼けなかったので、設備は殆ど残っていた。理科準備室も入り放題、標
本の骸骨がぶら下がっている。手を外してきて友達の首筋を撫でて楽しんだ。ま
た大きな瓶に水銀が沢山入っていた。ころころ転がるのが面白く、机の上を転が
して遊んでいた。ひょっとしたら今、からだのどこかに沈んでいるかも知れない。

後日譚

あれだけの爆撃を受けながら学校が焼けなかったのは、当時の山口校長先
生や職員の方々の献身的な御努力があったからだと聞いている。

運動場の巨大なすり鉢はいつ埋め立てられたのか覚えていない。ゴミを埋め
たのかも知れない。そのせいか、あの辺りはその後長いあいだ水はけが悪く、運
動会の時の父兄席にはいつも椅子が必要であった。

校舎の屋上の穴は永く処理されず残っていた。5年生の時だったか、丁度そ
の穴の下に席があり雨が降るたびに机ごと移動させられた。

▶ 授業

戦後の混乱のせいで生徒は多数入れ替わっていた。疎開先からそのまま転校
してしまった人、戦後になってから編入した人、消息不明の人等々。疎開前3つ
あったクラスは2つになってしまった。授業と言っても教科書も何もない。担任の
阪口先生は仕方なく「子供の科学」という雑誌を買ってきて教科書の代わりにさ
れた。その時「鉱石ラジオの作り方」等を教えて頂いたおかげで私はラジオ少年に
なってしまった。

突然「民主主義」の世の中になったが、本校の教育の基本姿勢は変わらな
かったと思う。例えば運動会の「造形体操」はそのまま続けられた。私達も先輩と
同じように五人扇やピラミッドや銅像や鎖を造った。

世相

▶ DDT

街は着のみ着のままの人がいっぱいだった。阪急電車の梅田駅には米軍人と
何人かの日本人が立っていて、DDT(殺虫剤、発癌性があるといわれ今は誰も
使わない)の粉末を入れたポンプを持って乗客のえり首や頭から容赦なくぶっか
けた。皆真っ白である。しかしおかげでノミやシラミは少なくなった。

▶ 闇市と買出し

当時は大人も子供も年寄りも皆同じように汚く、飢えていた。戦後すぐ極端な
物資不足に伴って各地に続々と闇市が誕生した。一寸したターミナルにはその
規模に応じた闇市が出来ており、そこでは金さえ出せば何でも手に入った。イン
フレが急速に進み、昨日と今日で物の値段が違うなどというのは日常茶飯事であ
った。「甘いあん餅どうですか、ひとつ10円、どうですか」オバサンが汚れた手で
売っている餅があくる日行くと15円になったりしているのは少しも珍しい事ではな
かった。

タバコは配給制で、葉と紙が別々だった。それを手巻きにして10本ずつ束ね
て売っていた。一本一本太さが違って誰も気にしなかったし、子供にも売って
くれた。闇市のまわりにはいち早くパチンコ屋が出来たが、子供がパチンコをし
ても、景品にタバコを貰っても誰も何も言わなかった。タバコを貰って仕方なく祖母
の土産にしたりした。

深刻なのは食糧の不足であった。皆、家に残っている着物や家財道具を持
って満員電車で鈴なりになって田舎のお百姓さんの所へ行き、頭を下げて米や野
菜と代えてもらった。しかしターミナルでは警官が待ち受けており、折角苦労して
交換してきた物を片端から没収していた。泣くに泣けない光景だった。子供も当
然こういった買出しに動員された。

▶ 進駐軍

鬼のようだと教えられていた米軍兵は、案に相違して皆背が高くびったりの服
を着て清潔で颯爽としていた。子供達があとを追いかけては厚かましくチョコレー
トなどをねだっていた。彼等は優しくかったが規律正しく、毅然としていた。ついこ
の間まで敵であったというような警戒感など全く感じさせなかった。ジープに乗っ
て来る姿が又洒落ていた。連合軍は、わざわざ日本軍と実戦経験のない連中を
進駐させたという話をあとで聞いた。米兵が学校に入って来たことはなかった。

▶ 車外乗車

昭和21年、京阪関目から通学するようになったが、これが又大変だった。各
駅停車は2、3両編成の木製のボロ電車で勿論自動扉などはない。朝夕は通勤
通学者でいつも超満員、乗りきれずにドアの外やバンパー(これがけっこう広かつ
た)にぶら下がって乗る。「車外乗車はやめましょう」という一見何の事かわからな
いポスターがあちこちに張ってあった。電車がのろいので振り落とされずに済ん
だのだろう。何台待っても乗れない時は守口あたりまでさかのぼって乗ったりもし
た。妹と一緒に通学するようになってからはお守り役になった。押し合いへし合い
の車内では小さな子は見えなくなってしまい、どこにいるのかわからなくなる。声を
頼りに妹を探して、押さないでくれと周りの大人たちに頼んだものだ。大切な理科
の宿題など、天満橋へ着く迄に全く原型を止めなくなっていた。超満員の車内で
両足を上げてても体はそのままで下へ落ちなかった。乗客は皆上手にすし詰めにな
っていた。駅で止まると、ドアのそばの人は順次降りて先へ並び降りる人を通
した。中で詰まっている人々は歯車のように回転して降りる人を先へ送った。今
の人々は、入口を占拠して、乗り降りの人があっても譲ろうともしない。

再び学校の事

▶ 二度潰れかけた追手門

戦後、陸軍の解体に伴って偕行社も解散させられ、関連があった偕行社学院
も当然解散の憂き目を見ることになった。しかし、教育の場をどうしても存続させ
たいという保護者、先生方の強い要望から「錦城育英会」が立ち上げられたが、
これ又偕行社のにおいがするという事で解散させられ、「財団法人大手前学
園」が再度立ち上げられた。このあたりの事情及びその後の動向については、
学院発行の各年誌に詳しい。

大切な事は、当然潰されてもおかしくなかった学院を、悪くいえば当時可能なあ
らゆる手段を使い、あらゆる苦難を乗り切って、ともかくも途切れることなく存続さ
せた方々の努力に何をおいても感謝すべきであろう。このあたりの事情は、学院
の暗い部分として評価されなかったきらいがある。しかし、これなくして今日の追手
門は存続し得なかったことを我々は改めて銘記すべきであると思う。

▶ 苦肉の策バザー

極度のインフレであった。預金の封鎖などということもあった。たとえ少々金があ
っても物資が絶対的に不足していた。買い出しや、その日その日の仕事で懸命
に生きていた時代だ。学校は存続したものの、先生方の給料が出せない。何
とかせねばと父兄が知恵をしばって家に残っている物を学校へ持ち寄って売り、
先生の給与の足しにした。これが今に続くバザーの始まりであるとされている。

▶ 西の丸の石垣

校門の前は濠を隔てて西の丸で、石垣がこちらへ張り出している。崩れた石
垣や「乾の櫓」は長い間そのままだった。門の前の堀端から西の丸の石垣に向
かって石を投げ、遠投を競った。石垣は案外遠く、石は届きそうに届かなかった。

▶ 先ずボールありき

戦後一時スポンジボールが流行った。何を転用したのかわからないが、厚さ1センチ
位のスポンジを積層してボール状に加工したものだ。これがびっくりするほどよく弾む。早
速「壁野球」というのが発明された。詳しいルールは省略するが、壁の前の地面にボー
ルをぶっつけ、それが壁にあたって跳ね返ってくるのをキャッチしてアウトをとる遊びであ
る。休み時間は殆ど壁野球だった。そのうち軟式野球ボールが現れると、これとグラブの
セットがまたたく間に流行した。皆親にねだってグラブを買ってもらった。「壁野球」は一

段とリアルになり、ボールが壁にあたる音から「ドッテン野球」と呼ばれた。ドッテン野球とキャッチボールが遊びの主流だった。大勢で遊ぶ時も主役はやはりボールであった。ボールひとつで出来る遊び、サッカー、ドッジボール、バドッジ、キックベースボール、三角野球…とにかくボールを中心にして走りまわった。正に発展途上国そのものだった。

▶ 卒業

小学校高学年、今なら進学を目指して勉強に追われる日々は結局何をしていたのかもわからないまま過ぎてしまった。はっきり覚えているのは運動会の棒倒し、騎馬戦、造形体操などで、勉強のことは全く思い出せない。修学旅行は無く、京都御所への遠足がその代わりだった。洲本の臨海にも結局行けなかった。卒業式は多分あったと思うが、全く記憶にない。卒業式のことを覚えていないというのはやはり異常である。疎開から帰って来た人達と卒業した人達とは随分違っていたし、詳しい姓名、住所などは学校に記録がないのでまったくわからない。ただ卒業した時の一枚の写真があるだけだ。何人かの記憶をたよりに姓名だけは何とか分かったが、一部の人以外は住所や消息はわからず、今日まで名簿は作れないままである。

かくして私は昭和23年3月「追手門学院小学部」を卒業した(一年先輩の58期生は「大手前小学校」の卒業)いつの間にか卒業していたというのが実感である。実はその年は学院創立60周年であったが、当時そんなことを考えた人は誰もいなかっただろう。

出来たばかりの中学校

昭和22年、いわゆる633制の教育政策にそって追手門学院にも「中学部」が作られた。今の大手前中高の発足であり、これこそ大手前キャンパスのスタートでもあった。

私も、何となくこの出来立ての中学部へ入ってしまった。入学試験など何も無く、八束先生の口頭試問がすべてであった。

先生 今の日本で、石炭が無くなったらどうしますか？

私 結局は国が減びてしまいます。

先生 そんなにいっぺんに言わずに少しずつ言いなさい。

私 …

一年先輩の一期生(小58期)は気の毒だった。彼等は「大手前小学校」を卒業して、しかも先輩のいない教室もない中学校に入ったのである。我々が入学した時もまだ校舎はなく、二学年が小学校のあちこちに間借りしていた。しかし、何と言っても一番のカルチャーショックは女子が入ってきて、しかも同席したことだった。子供の時の男子校の生徒にとって、中学になって突然女の子と一緒にになったのは遅きに失しており、言い換えれば刺激が強すぎた。この年齢の男の子はまだ子供だ。とまどい、恥じらい、照れくささの交錯する毎日だった。女の子とどう話したらいいかもわからない。何時からだったか女子だけのクラスができて、問題は一見解決したかに見えたが結局同じだった。一人ではしゃべることも出来ず、仕方なく集団で女子のクラスにストームをかけては撃退される日々であった。

しかし、この生まれたての追手門学院中学部ほどのびのびとした所はなかっただろう。戦中からのベテランの先生方もおられたが、まだ学生気分が抜けない、希望や野心に満ちた、何かやってやろうといった若い先生方が数多く入って来られた。まるで「兄貴」といった方も沢山おられた。ベテランの先生との間に時々意見の相違が見られる事もあったが、我々はそんな事に頓着なく好き放題にわるさばかりして先生方をいつも困らせていた。校長室の上の廊下にバケツの水をわざとひっくり返しても先生方は誰も我々を叱られなかった。上からの「お小言」はあっただろうが、それは皆先生方が受け止められていたのだと思う。ある意味でたいへんリベラルなよき時代であったのかも知れない。今の私の性格は、戦中のこわかった小学校時代よりも、この中学の3年間で形成されたと思っている。

昭和24年やっと校舎が出来た。木造二階建てだが、当時としてはお洒落な美しい建物で南を向いた壁には日時計があり、ローマ数字でMCMXLIX(1949)がデザインされていた。管理棟と教室棟の間には防火壁があり、ウダツがあった。

その頃既にラジオ少年だった私は、暇さえあれば日本橋をうろついてパーツなどを集め、学校では出口先生のおられた「理科準備室」に入り浸っていた。自治会の役員選挙の時、拡声器など作って感電して飛び上がったこともあった(私の応援した候補は落選した)。

▶ 軟式テニス

中学部に入ってすぐ軟式テニス部が出来、山田先生が指導しておられた。2年生になって入部した。体が弱かった頃は考えもしなかったことだった。新米はまず鏡の前に立ってフォームとスイングの練習、コートに出るとラインの外に立ってボール拾いである。コートは小学校の中庭にあり、殆どギリギリの大きさだった。小学校の校舎の床下には通気孔があり、鉄の蓋は供出してしまっただけでそのままになっていた。そこへミスしたボールが飛び込むのを潜り込んで拾って来るのも又新米の仕事であった。中学生がやっと通れる位の穴でしかも低くて這って行くしかない。潜り込んだ方がいいが中は真っ暗、しかしその頃ボールは貴重だったから何としても探し出さねばならない。猫やネズミに出会ったりしながら毎日真っ黒になり、いつしかボール拾いの名人になっていた。

疎開のおかげで足は丈夫になっていたのも、そこそこのプレーが出来ようになり、3年生になって選手にもらった。当時我が追中には抜群に強いチームが3つあり、私は次の4番目のチームの前衛であった。府下の大会など5チーム編成で参加するのだが、いつも上の3チームが勝ってしまい私の出番はなかった。ただ一度だけ第3チームが敗れて出番が回って来てこれに勝ち、優勝したことがあった。軟式テニスとの出会いはこの時に始まり、大学院を卒業する昭和40年まで16年間続いた。足は更に丈夫になり、瘦せっぽちで真っ黒だったが、いつの間にか病気知らずになっていた。

▶ 校歌の誕生

現在の「追手門学院歌」は我々が中学部に入った時出来た。作詞は八束先生である。しかし当時ワルガキであった私共には、何か優しすぎて校歌らしくないと思う。キーも高く、声変わりした男子には歌い辛いところもあり、何かピンとこなかった覚えがある。しかし今読んで(歌って)みると、この歌詞には苦しい戦争が終わり平和な世の中になって本当によかったという八束先生の感慨が行間切々と感じられる。高く聳える大阪城の姿や、濠の水の静けさに平和の願いを託されたのだろうと思う。この校歌も、戦後の混乱の中から生まれた珠玉の一つであった。

昭和26年、ヤングパワーの先生方と、自由と、過保護と、よき追手門の伝統プラス民主主義にどっぷり浸かってすっかり人格を作り上げられた私は、こよなき思いを抱いて追手門学院をあとにした。一年前に始まった朝鮮戦争がますます激化し、一方ではサンフランシスコ講和条約がようやく締結されて日本は改めて独立国となり、泥沼から懸命に這い上がりつつあった日本経済が更に活性化しようとしていた時代であった。

おわりに

以上、大いに私情も交えて記録に残っていない我が校の戦中戦後を語ってきた。繰り返しになるが、太平洋戦争で小学校の建物が焼けずに奇跡的に残ったことと、何度も解散させられそうになった学校を、先生方や有志の方々があらゆる手段を用いて存続させられた事がその後の追手門の発展に繋がったのである。このような苦しい時代を見事に乗り越え、幼稚園から大学院までを擁する総合学園に発展した今日の追手門学院にとって、目指すべきは「オール追手門」に尽きると思う。下から上まで一本背骨の通った、一貫した学院作りである。他の私学と異なり、小学校から順次発展した我が校は、残念ながら次々誕生した各学校が独自のカラーを打ち出してしまい、一貫した教育理念に欠け、それぞれが自分を主張し、学院内の全ての学校が「中途半端」の状況である。この状況をたゆまぬ努力で着実に克服し、幼稚園から大学院までしっかりした教育理念の背骨を一本通すことが今後追手門学院の進むべき本道であると考えている。そしてこれが学院を心から愛する一卒業生の願いでもある。



▲昭和22年運動会造形体操(大阪城は天守閣以外は何も残っていなかった)

小58期 い組 同窓会

平成18年7月2日(日曜日)

総員50名の内、健在者で連絡のつく者は、わずかに16名となってしまったが、それでも、毎回10～12名の出席があるのだが、今回は常連の出席者の欠席が多く、出席者は8名であった。

しかし、いつもは指名して順番に現況報告をしてもらうのだが、今回は、食事もそっこのので、昔話や健康の話、それよりも現状と今後の楽しみについての明るい話が多く、延々と発言が続き、けんけん・がくがく所定の時間が過ぎて話も止まらず、会場からお時間ですが?の声がかかって止むく会を終える始末であった。

欠席者の「ひとこと欄」にも、今回は残念だが次回は必ず行くからとの伝言も多く、毎回賑やかになって行くのが楽しみである。

年を取ってくると、旧友に会うのが若返りの秘訣の一つでもあり、今から次回会の会合がまた楽しみである。(弥谷)



旧大阪偕行社小学校第49期ろ組 クラス会

平成18年6月10日(土曜日)

去る6月10日(土)例年通り新阪急ホテルにて開催いたしました。

本年は昭和31年に幹事制のクラス会を当時芦屋山手にお住いの東繁市先生の御自宅で開催してから50年に当り一人でも多くの参加を希望していましたが遠隔地に住居の方又体調不良の方など参加者が従来より少人数になりましたが約2時間を学校時代のこと又お互いの健康趣味等を語りあい楽しく過ごしました。

尚今後については出来れば平成20年が卒業70周年に当たるためそれまで継続したいとの希望もあり来年の再会を楽しみに閉会しました。

ちなみに卒業生45名中 消息不明7名 病死15名 現在数23名 尚 当日出席者

西本慶之 米島忍 竹中増夫 三田裕 久野信夫 佐々木成之進 の6名です。



山桜会90周年記念 チャリティーゴルフコンペ開催

2006年9月17日(日)、山桜会文化活動委員会ゴルフ部会の企画・運営のもと山桜会90周年チャリティーゴルフコンペを開催いたしました。毎年1回開催しているチャリティーゴルフコンペですが、今回は山桜会創立90周年・追手門学院120周年ということで、通年よりさらに大盛況の中、成功裏に終えることができました。これも、山桜会会長をはじめ、協賛いただいた方、110名を超える参加者の皆様のご支援ご協力があったことであると心から感謝と御礼申し上げます。

当日は通年と違う記念ゴルフコンペとして、山桜会90周年マークの入ったゴルフボールを、山桜会から皆様に参加賞として進呈いたしました。参加者の皆様からは、「大事に飾ります」や「もったいなくて使えない」といった声が飛び交っていました。これは当日参加した方だけが持っているの、大変貴重で記念になり、喜んでいただいたと考えております。

今回ご協賛を頂きました皆様に深くお礼申し上げます。今回のゴルフ部会では、当日参加していただいた方には、必ず何か記念になるものを持って帰っていただくといった目的で、ゴルフ部会から声を掛け、たくさんの方に答えていただき、山桜会ゴルフコンペと一緒に盛り上げていただけたと感謝いたしております。

また、参加者皆様の参加費一部から、総額11万円をチャイルド・ケモ・ハウスにチャリティーとして寄付させていただきました。チャイルド・ケモ・ハウスは、小児がん治療中の子どもたちとその家族の生活の質に配慮した、日本で初めての専門施設設立を目指しています。当日の懇親会では、チャイルド・ケモ・ハウスの方にお話をいただきました。山桜会として、少しでも福祉活動に貢献し、啓発活動にも協力できたと思います。

皆様のご支援、ご協力有り難うございました。実行委員会一同、心より御礼申し上げます。 ゴルフ部会 間 綾子



▲川原会長

女性部会の催し



おいしい紅茶
の入れ方と
お洒落な
おもてなし

日時：平成19年2月22日(木)11時～
場所：「クウ・ド・フランス」(天満橋)
講師：加藤淳子先生(ダイグアカデミー校長)
会費：4,000円
おいしい紅茶を入れるポイントとお洒落なテーブルセッティングを教えていただきます。
昼食は「クウ・ド・フランス」で本格フランス料理を!

詳しくは山桜会ホームページをご覧ください。山桜会事務局までお問い合わせください。
H P. <http://www.yamazakurakai.com/>
TEL. 06-6940-3481

整形外科 胃腸科 外科

医療法人 仁友会

桜之宮クリニック

院長 胃腸科 秋山 陽彦
(小59、中2期)

副院長 整形外科 石川 正士

536-0008 大阪市城東区関目3-2-22

TEL 06-6939-2851

FAX 06-6931-2359

京阪電車
関目駅 南200m



快適な
住まいを創る

株式会社 辻中
ガスセンター 辻中

代表取締役 辻中 弘敏
(茨木21期生)

専務取締役 辻中 徳一
(茨木23期生)

〒561-0882 豊中市南桜塚2丁目6番27号
TEL:(06)6858-1235



〒542-0012
大阪市中央区谷町6丁目1-16

TEL : 06-6763-0234
FAX : 06-6763-2416

<http://narukawa-co.com/>

東京山桜会 第49回総会

平成18年5月13日(土)



平成18年5月13日(土)、東京会館の東商スカイルームに於いて東京山桜会 第49回総会が行われました。

約60名参加され饗饗とされた紳士淑女達で、自然体で和気あいあいと楽しく会がとり行われました。

大阪からおこいだきました先生方や役員の方々から追手門学院の近況をお聞きし素晴らしい発展に皆様喜んでいらっしゃいました。

今年は、叙勲・受賞者が、二人おられ、垂水公正氏(元大蔵省、元アジア銀行総裁)と、深江賢氏(元ブルガリ社長)でした(瑞宝中綬章/イタリア共和国功労コメンダトーレ勲章)。皆んなで祝福をし盛り上がりしました。その後田中美香さんのお箏の演奏がありました。『三つの遊び』宮城道雄作曲で、(まりつき、かくれんぼ、汽車ごっこ)の楽しい曲でした。越智則英氏(中高15期)も参加され校歌を美声で歌われました。お話の輪も広まりいちだんと華やかになりました。

来年は東京山桜会第50回記念総会が学生会館の201号室(大講堂)で行なわれます。ここでは、日本最高の学士の方々が表彰される場所だそうです。学生会館は、東京大学の発祥地で、開成校といわれてのちに開成学校になり、そして開成学校と医学校がいっしょになって東京大学になった所です。そしてここは、ホーレス・ウィルソンが1872年明治5年、野球を日本人にはじめて教えた所でもあります。1928年創立で国の登録有形文化財になり1886年に発足し学生会が120年になります。ここで宿泊することもできるそうです。リーズナブルだそうです。50周年記念の時は、ここで泊まれても思い出になるでしょう。ぜひ来年50周年記念総会にいらして下さい。皆んなでお待ちしております。

(佐伯記)

平成18年度 山桜会 総会

90周年総会・懇親会「新会員をご招待!」



▲85期一同 川人元校長を囲んで

頂いた事で、山桜会が発展していく可能性を感じました。その後本殿にてご祈祷の後、懇親会へ。

懇親会会場は、例年の懇親会とは違う熱気が溢れていました。年代の違う会員と親睦を深めることは、会の目的でもあります。その様な場となった今回の懇親会は大変楽しく90周年に相応しいものとなりました。

新会員を招待するような企画は、山桜会90年の歴史にも無く大変不安でしたが、多くの方に協賛頂き実現致しました。大阪天満宮をはじめ学校関係者・山桜会役員・会員皆様のご協力のお陰で大成功致しました事を御礼申し上げます。

平成18年6月25日(日)90周年を記念する平成18年度総会は晴れやかに開催されました。当日は、生憎の雨でしたが、この春小学校を卒業した新会員から90歳代のベテラン会員まで一同に介しました。

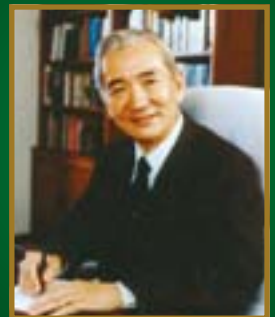
総会にも新会員が多く出席して

総会・懇親会開催にあたり多くの皆様よりご協賛頂きました。ご協賛頂いたおかげで新会員の皆様をご招待することができました。ありがとうございました。

協賛金リスト

大楠善彦(大楠病院) / 岡本敬子 / 二宮淑子 / 賛田肇 / 賛田祥有 / 中央税理士法人 / 鷺見文子 / 岡本安明 / 松本暁子 / 寺田誠 / 中山泰秀 / 赤松照夫 / 永田義和 / 秋山陽彦 / やおもく / 望月薫 / 茂木晶子 / 藤村敬 / 寶来扶佐子 / 福本敬久 / 藤原弘邦 / 大井雅雄 / 佐藤文一郎 / 水内潔 / 石津良行 / 京極興壽郎 / 榊原美子 / 三宅彰 / 大室勝一 / 中本収 / 長谷川朋子 / 角田翼 / 伊藤啓吾 / 新田昌男 / 能登知己 / 神谷弘 / 武田桂三 / 倉田真紀子 / 田原一 / 川原俊明 / 生川紳一郎(敬称略、順不同)

垂水公正さん 瑞宝中綬章 を叙勲されました



おめでとうございます。

2006年春の叙勲において元大蔵省関税局長、元アジア銀行総裁「垂水公正(小53期)」さんが瑞宝中綬章を叙勲されました。

◆米寿を迎えて山桜会を想う

元 学院理事・山桜会副会長 赤松照夫(小43期)

私の略歴

私が大阪偕行社付属小学校へ入学したのは大正15年で昭和7年卒業後大阪府立今宮中学・大阪商科大学高等商業部・同志社大学を昭和18年に卒業・関西急行鉄道(大軌参急)後の近畿日本鉄道を経て京阪電気鉄道へ移り昭和51年定年退職、電鉄生活30余年の勤務を無事終えたのでした。退職後は家業の不動産管理の仕事に従事・父が設立した松利殖産株式会社へ入り其の後利峰恒産株式会社を設立し現在に至っています。この間実に70余年山桜会会員として母校との繋がりを持ち現在は顧問として理事会に出席するほか主要な行事に参加しています。

赤松家と追手門学院

私の先々代赤松利八は明治21年の大阪偕行社付属小学校設立当時赤十字社からの要請を受け発起人の一人として尽力したと聞いて居り父も在世中役員を勤め私で4代目 元大阪市交通局局長代理の弟(義夫)と私の長女充子(夕陽丘高校音楽科非常勤講師・ムジークシユレ大阪主宰)も山桜会会員であり更に孫の博子も現在在学中で6代に亘って切っても切れない関係です。

殆ど知られていない重大事件

茨木市に追手門学院大学及び中高等学校が開校された今から約40年前

大阪市から全く予期しない申入れがありました。

大阪市から局長他数名が来校され学院側から山本巖氏(大阪大学名誉教授・学院理事・山桜会々長)と私、更に浜守小学校長(学院理事)の3名が接見しました。大阪市によると都市計画の一貫として大阪城の南側は元の陸軍第八聯隊の跡を難波宮跡として整備し大阪城の北側即ち追手門より土佐堀通り迄即ち現在の小学校及び中高等学校の土地を公園として整備する為茨木へ移転されたいとの事でした。学校側の私等3名の学院理事はこの申入れに対し【1】学院発祥の地であり既に80余年の歴史があること。【2】学校の所在地として抜群の環境下にあること、などの理由でたとえ市長が来訪されても駄目な事は駄目でこの申入れを拒否し応じられないと回答し市の申入れを一蹴したのでした。この時市の申入れに屈していたら現在の母校はなくなっていたと思うと感無量です。今ではこれを知っているのは3名中私のみとなり現在の学院関係者も殆どが知られないのが現状です。

おわりに

今年は山桜会創立90周年・2008年には学院創立120周年を迎えます。今後も山桜会会員は母校とのかけ橋として社会で活躍し大阪での名門追手門学院が益々発展する事を切望する次第です。

追手門学院校友会

平成
19年

山桜会新年会

YAMAZAKURAKAI New Year Party 2007

～120周年への飛翔・厳かなる新年の集い～



日時 平成19年1月27日(土)
午後5:30受付 午後6:00開宴

場所 リーガロイヤルホテル 2F 山楽の間
(大阪市北区中之島5-3-68 TEL:06-6448-1121)

会費 10,000円【中、高、大学生 5,000円 小学生無料】

司会 寺谷 一紀さん

※チケット販売中(会報に同封の出欠葉書にてお申し込みをお願いいたします。)

お問い合わせ 山桜会事務局宛 TEL:06-6940-3981 FAX:06-6940-3482 ホームページ <http://www.yamazakurakai.com>

1 中高等学校、大学在校生連携による チアリーディング部 演技披露



チアリーディング部は、年4回の大会、アメリカンフットボール部の応援他様々なイベントへの参加を中心に活動しています。

昨年の西日本大会では「特別賞」を受賞しました。また、6月に開催された関西大会で予選を通過し、8月の全日本大会では、準決勝から出場することができました。

これからも、多くの方々に元気・勇気・笑顔を与えるチアリーディングを目指し活動していきます。

2 世界一に輝く、追大 少林寺拳法部 演武



少林寺拳法部 国際大会において
最優秀賞を受賞、世界一!!

追手門学院大学 少林寺拳法部 が、4年に一度開かれる少林寺拳法国際大会において、2001年フランス大会の2位4名、3位3名の受賞に引き続き、2005年10月に日本で開催された国際大会において、予選を勝ち抜いた3名が出場し、見事最優秀賞受賞、世界一の栄冠に輝きました。

3 山桜会員とPTA OBによる マジック イリュージョン

大手前中高卒業の富士谷さん親子によるマジックイリュージョン。



Profile

Ako (小104期 大中高47期)

小学生の頃から、マジシャンである父親のアシスタントをきっかけにマジックに興味を持ち、18歳の時から、深井 洋正師に教わり、1999年世界大会(香港)挑戦。2003年にはマジックコンベンション特別賞を受賞。2004年マジック専門学校(CHAVEZ SCHOOL in Los Angeles)卒業。同年、マジックコンベンション「目指せ世界へ」特別賞を受賞等の経歴を持つ。現在はバー、レストラン、ホテル、劇場Party、Event Showなど様々なところで活動中。



Profile

富士 奇 -ふじき-

- 近畿大学奇術部OB会会長
 - 第1回素人マジックコンクール優勝
 - 映画「37階の男」マジシャンとして出演
 - エスカイクラブイベント、パーティー10年間連続出演
 - ロータリークラブ周年記念イベント3年間出演
 - 道頓堀商店街十一会新年会5年間出演
 - 各種ホテルイベント、パーティー多数出演
- (富士 奇さんは49期大手前中高 元PTA会長)

東京山桜会50周年記念総会のご案内

日時 平成19年6月9日(土) 11:00~15:00

会場 千代田区神田神保町 学士会館201号室

・東京山桜会回顧談
・西山恵子さんと越智剛英さんのコラボレーションコンサート
(オペラとミュージカルの名曲から)

会費 10,000円

申込先 東京山桜会事務局

TEL/FAX 044-877-2138 萩原正民

素敵な記念品をさし上げます。お楽しみにして下さい。

学士会館の宿泊も受け付けます。

学士会館は、とても有名で国の登録有形文化財で、2006年で学士会は120年になります。新島襄の生誕地でもあり東京大学発祥地でもあり日本野球発祥地でもあります。ぜひお越し下さいませ。

学院120周年記念事業 総合募金のお願い

母校創立120周年を迎えるにあたり、山桜会は母校への教育支援を大きな活動目標としてきました。そして今、財政面からの支援も求められています。母校120周年記念事業の成功、そして母校のさらなる発展のため、総合募金への卒業生の積極的なご協力をお願い申し上げます。校友会 山桜会 会長 川原俊明

■会報77号の訂正とお詫び

会報77号のP18掲載の「創立120周年記念事業校舎建設計画」記事内11・13行目【誤 "建設会社" >>> 正 "設計会社"】訂正し、謹んでお詫び申し上げます。